

医者も知らない平穏死



連載³⁶

〈長尾和宏〉長尾クリニック院長。日本尊厳死協会副理事長。著書に「平穏死」10の条件」など。

病院では平穏死は難しいのか? そんなふうにいる人ものいること

バイザーを務めておられがらも、「自分の時も、るでしょう。入所者が亡くなるかやって見送ってもら

しかし、「病院は」と自然な状態でいさせてあげたい」と思っても、現実には周囲の目があり難

「平穏死」在宅でしかかなわぬ」と決めつけて

が正面玄関に集まり、お見送りをするそうです。

鳥海さんのような施設な

「病院は病気を治す、修理工場」で、死ぬところ

呼吸困難に陥った患者さんには、その方が90歳の

特別養護老人ホームなどの施設で

者やそのご家族は驚きなが望む生をまっとうでき

医師の頭には呼吸器をつけることもあ

「一秒でも命を延ばすことが医師の使命」と刷り込まれてい

迎えることの意味を理解している医師やスタッフがいれば、十分に平穏死は可能です。

私が親しくしている保健師、鳥海房枝さんは特別養護老人ホームのアド

「1秒でも命を延ばすことが医師の使命」と刷り込まれてい

私も、病院で働いていた時はそうでした。

近い将来、もしかしたら病院でも平穏死を迎えられるようになってい

私が親しくしている保健師、鳥海房枝さんは特別養護老人ホームのアド



食べたら誤嚥性肺炎を起す可能性が極めて高い患者さんを目の前にし

かもしれない。いや、そうであってほしいと、願って活動しています。

(写真はイメージ)